

北川達夫著「フィンランド・メソッド入門」を読む

- 1に練習、2に練習が学力 1のフィンランドの基礎学力定着の方法 -

一に練習、二に練習

どうも、肝心なところがスッポリと抜け落ちてしまっています。

私がフィンランドの教育事情を調査しているとき、現場の教師たちと次のような会話を交わしたものです。

「どうしてフィンランドは読解テストで一位になれたのだと思いますか？」

「よく練習したからだろうね」

「残念ながら、日本はあまり点数がよくなかったんですよ」

「練習が足りなかったんだらうね」

実は、この会話の中に、すべての秘密が隠されています。

フィンランド人は「よく練習したから」成績がよかった。日本人は「練習が足りなかったから(実際には、ぜんぜん練習していないから)」成績がよくなかった。

そう、ただそれだけのことなのです。

ただそれだけのこととはいえ、グローバル・コミュニケーション力に対応したフィンランド教育と、ぜんぜん対応していない日本教育の差が如実にあらわれたわけです。

P.22 ~ 23

北川達夫著「フィンランド・メソッド入門」経済界 2005年11月7日刊

- 2006年9月30日記 -